

デジタルで紡ぐ「令和の近隣互助」

はすが丘モデル：



すべての始まりは、ある実体験から

“

「だれかに、ゆるやかに、
見守っていただきたい。
何か良い方法がないかね！」



孤立の危機: ■歳の義母。実家で一人暮らし、転+倒の不安からデイサービス■し、近所付き合いが消滅。



家族の介入: 娘（妻）の家に1週間滞在。朝夕の散歩に付き添い、買い物や外食へ連れ出す。



劇的な回復: ■、帰る頃には見違えるほど元気に。

高齢者の心身を回復させる最大の鍵は「会話と外出」という社会的な刺激である。

時代とともに消滅した「自然な見守り」



昭和の家族・地域



住環境：家族との同居が前提



地域関係：向こう三軒両隣の「密」な関係



セーフティネット：地域社会が自然に補佐・見守り



令和の現状



住環境：単身世帯の増加



地域関係：プライバシーを尊重する「個」の社会



セーフティネット：個人の責任となり、孤立・孤独死の不安が増大

意図的に「ゆるやかな見守り」や「ふれあい」の仕組みを再構築しなければ、家で孤立するシニアは増え続ける。

デジタル化の推進と、立ちはだかる「3つの壁」

はすが丘自治会での取り組み



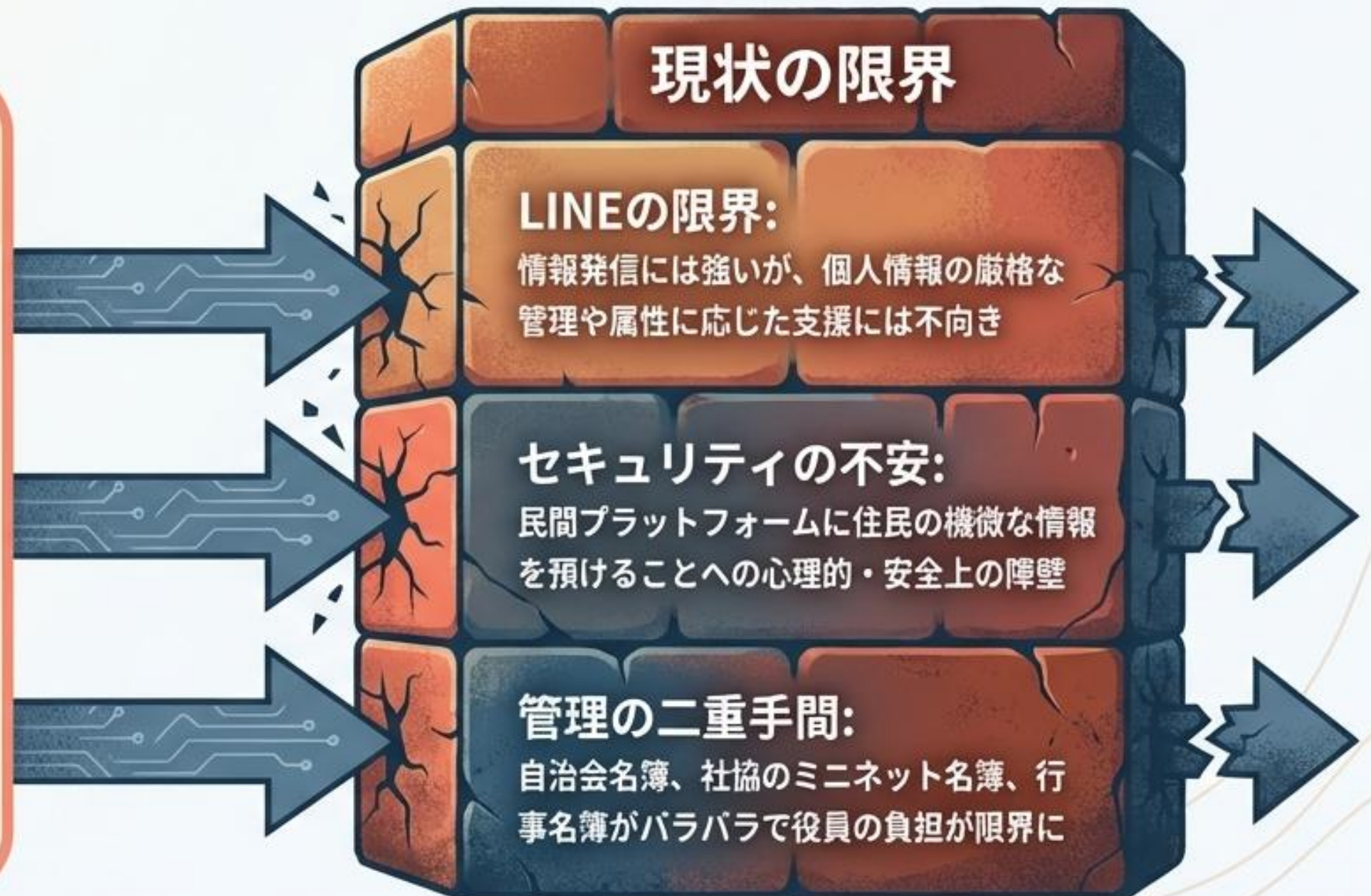
- ・ ブログ毎日更新



- ・ スマホ教室



- ・ 公式LINE準備



ビジョン：「はすが丘モデル」の構築

「広島市公認サーバー」を核としたハイブリッド運用により、点在するツールを統合。



統合型支援システムの「3階層アーキテクチャ」

広報層

役割:
興味・関心を引く、
外に出るきっかけ作り

ツール:
公式LINE・HP

管理主体:
自治会（広報）

管理層

役割:
名簿管理、行事申込、
会費管理

ツール:
公認セキュアDB

管理主体:
自治会（事務局）

福祉層

役割:
ゆるやかな見守り、
近隣ミニネット連携

ツール:
公認セキュアDB

管理主体:
社協・福祉委員

機能①&②：「LINE以下」の究極にシンプルな操作性

デジタルに不慣れなシニアでも迷わないUI設計

安否確認: スマホを開いて「おはよう」ボタンを押すだけ。自治会と社協へ「今日も元気」が即座に伝わる仕組み。

おはよう

有価資源ごみの「ゴミ出し日」の前日通知

行事の急な変更案内

HPトップページ（新着ブログ等）への簡単な誘導

情報配信: 複雑な操作なしで、日常に必要な情報がプッシュ通知で届く。

- ・有価資源ごみの「ゴミ出し日」の前日通知
- ・行事の急な変更案内
- ・HPトップページ（新着ブログ等）への簡単な誘導

機能③：住民名簿と連動した「ゼロ入力」行事管理

住民の体験

参加する

- 名前の入力は一切不要。
- ボタン一つでサロンや教室への参加申し込みが完了。

役員・管理側の体験と拡張性



ID:	氏名	参加状況
001	山田 太郎	完了
002	山田 次郎	完了
003	山田 一郎	完了
004	山田 五郎	完了

自動生成名簿（入力不要）

- 役員の手作業による名簿作成・照合を撤廃。
- スポットボランティアの気軽な募集と申し込み。
- 自治会・子ども会参加者への特典付与システム。
- 将来的には、会館予約や会費決済への拡張も視野に。

機能④：平時の「気がかり」と災害時の「命」を守る



気がかりのデジタル共有

- 「最近、新聞が溜まっている」「姿を見ない」などの日常のサインを検知。
- 支援者がスマホから社協（近隣ミニネット）へ、即座に・内密に情報共有。



災害時の一斉安否確認

- 発災と同時に全住民へ安否確認をプッシュ通知。
- 回答結果をシステムが自動集計し、役員がリアルタイムに地図上で把握・救助行動へ直結。

はすが丘モデルがもたらすエコシステム



住民

- 「誰かが見守ってくれている」という確かな安心感。
- 情報が届くことによる、社会参加と交流の機会増。



自治会役員

- 名簿管理のデジタル化による事務負担の大幅な軽減。
- 重複業務の解消と、スムーズな行事運営。



広島市・社協

- 孤独死の未然防止と、迅速な要支援者へのアクセス。
- 「自助・共助」が機能する、次世代の先進的
地域モデルの確立。

デジタルは手段にすぎない。

**「目的は、昭和のような
温かい繋がりを、
令和の形に直すこと。」**

誰もが最期まで安心して暮らせる「デジタル時代の互助モデル」へ。